

第4回「国連世界観光機関（UNWTO）／ユネスコ 観光と文化をテーマとした国際会議」 （国連 観光・文化京都会議2019）について

1 観光と文化をテーマとした国際会議

本会議は、国連世界観光機関（UNWTO）とユネスコが主催し、観光と文化の大臣をはじめとする各国の関係者が集結して、貧困を緩和し、雇用を創出し、自然と文化遺産を保護するために観光と文化の力をいかに活用するかを議論する唯一の国際会議。

2 開催結果

- (1) 日 程 令和元年12月12日（木）～13日（金）
- (2) 会 場 国立京都国際会館
- (3) テーマ 将来世代への投資 ～観光×文化×SDGs～
- (4) 参加者 各国の観光・文化大臣など政府関係者、国際機関関係者、民間事業者等
- (5) 参加人数 約1,500人（2日間延人数）
- (6) 参加国数 約70箇国
- (7) 主 催 国連世界観光機関（UNWTO）、国連教育科学文化機関（UNESCO）
- (8) 地元主催者 観光庁、文化庁、京都府、京都市
- (9) 内 容

第4回となる京都会議では、「将来世代への投資～観光×文化×SDGs～」をテーマに、「文化の継承」「地域コミュニティ」「人材育成」等に焦点を当て、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて観光と文化の力をどう活用するかなどについて、閣僚級会合や分科会等において、一般参加者にも開かれた議論が行われた。

また、門川大作京都市長からは、「地域コミュニティ」「文化」「観光」の理想的な関係を築き、SDGsの達成に繋げていく「京都モデル」について、特別講演を行うとともに、会議の成果として、今後の各国・地域における観光と文化に関する取組指針となる「観光・文化京都宣言」が取りまとめられた。

<特別講演（門川大作京都市長）>

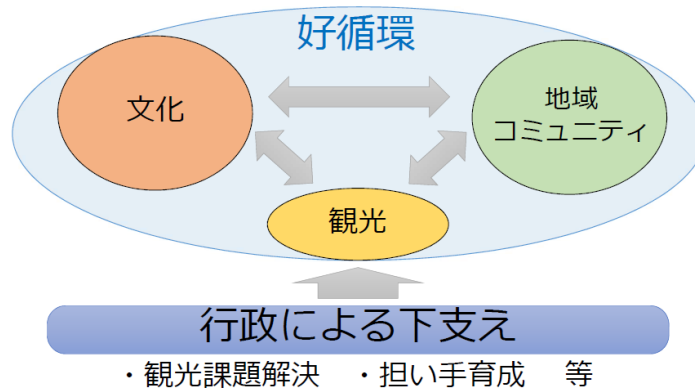


<観光・文化京都宣言>



3 「京都モデル」

「京都モデル」とは、「観光」は「文化」と「地域コミュニティ」の継承・発展に向けて、三者の間に好循環を生み出す「プロモーター」となるべきであり、そのために、行政は観光課題の解決や、担い手の育成等の下支えを行うことが必要であるという理念及び実践のこと。



4 観光・文化京都宣言

閣僚級会合や分科会等で議論された内容をもとに、今後の各国・地域における観光と文化に関する取組指針となる「観光・文化京都宣言」が会議の成果として取りまとめられた。宣言は、以下の4つの大項目で構成されており、京都市長特別講演の内容も多数盛り込まれた。

- (1) 最先端の文化観光プロジェクトにおける革新的な政策とガバナンスモデルの実践
- (2) 文化の伝播と相互理解による観光の質の向上
- (3) 地域コミュニティの強化と責任ある観光の推進に向けた観光マネジメントの再構築
- (4) 文化観光の持続可能な発展と共有価値のより良い理解に適した能力強化

特に、「京都モデル」については世界から高く評価され、「観光、文化及び地域コミュニティの関係を適切にマネジメントする『京都モデル』の活用を推進する」(1. 6)と明記されたことをはじめ、「観光客の分散化(時期・時間・場所)」(1. 4)や、「生活文化の担い手である住民の意見を尊重」(3. 4)など、これまで進めてきた京都の取組・理念のほか、京都市長から提案した「UNWTO 世界観光倫理憲章を補強する行動規範等の構築」(1. 5)なども盛り込まれた。